

進路

だより

2016年4月13日(水)
貝塚市立第二中学校
NO2

授業開始

いよいよ三年生の授業が始まりました。クラスが一丸と

なって授業に真剣に取り組めるよう、お互いに高めあい、声をかけ合える雰囲気をつくっていきましょう。まずはやる気を「あいさつ」という形に！

第一回進路説明会

4月21日木曜日の参観の後、第一回進路説

明会(第二回は10月28日金曜日)と修学旅行の説明会を行います。保護者の方には、お忙しい中恐縮ですが、ご参加いただけたら幸いです。



お知らせ

- 1、川口交通遺児育英会 奨学資金貸与、
入学資金給付 予約募集 約7名

応募資格 保護者等が交通事故で死亡したり、あるいは負傷のため著しい後遺障害1～3級があつて働けなくなった家庭で、高等学校または高等専門学校への就学が経済的に困難となった家庭にあつて、学業、人物ともに優秀な者

奨学金 月額2万円(うち1万円は貸与、残り1万円は給付)

入学資金給付 10万円以内

出願 校内締切 5月6日(金)までに担任の先生に申し出て下さい

- 2、交通遺児育英会奨学生予約募集

応募資格 保護者等が道路における交通事故で死亡したり、重い後遺障害(別途規定があります。)のために働けず、経済的に就学が困難な場合。

*収入基準が別途あります。

奨学金 月額2万円、3万円、4万円から選択する

入学一時金 20万円、40万円、60万円からの希望選択

出願 第一次募集 平成28年4月1日～8月31日

(校内締切7月8日金曜日)

第二次募集 平成28年9月1日～平成29年2月28日

(校内締切2月1日水曜日)

☆担任の先生に申し出てください。

3、その他の奨学金

まだ案内は来ていませんが、例年、大阪府育英会の予約募集があります。昨年度は9月中旬に募集・申込みがありました。奨学金は高校入学後も募集があります。また、貝塚市の奨学金も例年あります。今後、案内をお渡しするので、よく見ておいて下さい。過去に奨学金の案内が生徒から保護者まで届かず、申し込めなかった事例もありましたので、くれぐれも注意して下さい。

進路に関係したお話*****

大工の仕事

「進路」というと、多くのおなさんは「高校進学」のことを思い浮かべることでしょう。けれども、「高校進学」の後、結局「仕事」につながってきます。自分のやりたい仕事をするために「進学」なども関係するわけですし、中学を卒業してすぐ仕事につきたいと思っている人にとっては、切実な問題でしょう。



仕事については、2年生のときにも学習したと思いますが、この進路だよりも「仕事」についていくつかの例を紹介していきたいと思っています。

● 大工さんの仕事

今回紹介するのは高木信夫さんという27歳の「大工さん」のお話です。大工さんといえば、木を使って家を作りますが、その木もただやみくもに切ればいいのではないそうです。

木は生きています。

30坪くらいの家を建てるには、だいたい柱は70本くらい使いますが、その1本1本の性格がみな違います。種類が違えば性質も違うのは当然ですが、同じ種類でも、1本として同じものはありません。みんなそれぞれ表情を持っています。

木は、乾燥すれば縮みます。その縮みを計算して、どの場所にどの木を使うか考えなければなりません。木には裏、表があります。芯に近い方が裏で、外側が表。それを逆に使ってしまうと、家ができてからゆがみが出てくる。

一本一本の木にはそれぞれ個性があり、その個性を生かして、十分発揮できるところを見つけて使い、なおかつうまく調和させて一つの家を作るのです。でも、木の個性を見分け、その個性にあった使い方をするというのが一番難しい。

どの木を、どこに使うかを「墨つけ」といいます。つまり、1本1本の木に番号をつけたり、切ったり穴をあけたりする場所を墨で書くから、こう言われているのですが、この仕事は親方がやります。親方は木の肌ざわりと重さだけで、この木はどのくらいしけているか（湿っているか）わかるといいます。

この種類の木でこのくらいの長さなら、重さはどのくらいか、経験で知っているのです。これは少し重いからまだ湿っている。ならば、乾燥したらどのくらい縮むか、どこにひび割れが入るかと計算して、どこにどういうふうにするかを考え、決めていく。

大工は木を切ったり打ち付けたりするだけが仕事ではなく、この「墨つけ」ができるようになって初めて一人前です。「墨つけ」ができるようになるまでには、まず10年はかかるといわれています。残念ながら、20歳のときに大工になった私は、まだそこまでいきません。

10年毎日木とつきあって、やっとその木を上手に使えるようになるんですね。また大工さんの技術は、「墨つけ」だけではありません。基本になるのが、道具の使い方だそうです。

今はくぎを打つにしても、木を切るのにしても、のみ（木を掘る道具）やかなづち、のこぎりを使わず、機械でやりますが、親方の「かなづち、かんな、のみが大工の基本。若いうちから機械しか使ったことがないというのでは、上達しない。」という方針で、道具の使い方を教わりました。

使い方と同時に教わったのが、かんなやのみの刃のときかた。見ていると簡単そうですが、やってみると実に難しい。平らに砥がなければいけないのですが、一定の角度を保って砥げなくて、かえって刃先が丸くなってしまふ。自分ではまっすぐやっているつもりでも、かたよってしまふんです。かんなの台ならしも難しい。0.何ミリという微妙なちがいででもけずりぐあいがちがってきます。かんなは力でひくようではダメだ。と親方によく言われました。台のならしかたによって削り分けるんだと。

とぐのは毎日ですから大変。冬は水が冷たかったですね。3年たってある程度とげるようになりました。もっとも、今は機械で削ることが多いですが。しかし、細かいところは昔ながらのかんなやのみでなければできません。

● 俺の力で建てたんだ！

かんなを「研ぐ」作業も3年間で「ある程度」なんですね。そういう事ができて、やっと家が建てられるわけです。そして、家を建てられることで、本当の大工の仕事の喜びが味わえるのです。

次に覚えなくてはいけないのが、仕事のり。現場での仕事の順序です。骨組みの柱のほかに、材料をどういうふうに分け、どこにするかを判断する。材料をむだなく、そして手早く作らなくてはいけないわけです。

最初の一年は、ただ親方のいう通りに動いているだけで、無我夢中でした。家を建てたという実感はなかった。しかし、技術を身につけて、自分でも考えて仕事ができるようになると、完成したとき、「この家はおれの力で建てたんだ」と思うと、何ともいえずいい気分でした。これは大工じゃないと味わえない気分です。

そのうえ、お客さんにほめてもらえばこんなうれしいことはない。建てた後も、お客さんとの付き合いが続くこともあります。あるお客さんは、良くつくってくれたと本当に喜んでくれて、その家に来た人に自慢しているそうなんです。それを聞くと、こちらまでうれしくなってくる。今でも「遊びに来なさい。」と言ってきて、行くとごちそうしてくれたり、私の子どもにもとおみやげまで持たしてくるんです。

将来はどんな家の注文にも応じられる腕を持ちたいと思っています。

【この話は、高校出版の「月間高校生」『私が選んだ仕事—進路選択を控えたあなたへ』という本に載っていたのを一部省略して紹介したものです。

- おわりに

さて、大工さんの仕事、いかがでしたか？一本一本の木の個性を生かしながら、一つの家を作っていく大工さん。自分の作った家は長く残るし、その家で暮らす人たちの笑顔が想像されます。この話を読んで、私は自分の中学時代からの友人を思い出しました。その友人は、大工さんではなく、家の設計士せつけいしになって、たくさんの家を設計しています。私の家の設計をしてくれたこともありました。（事情があって、実際にはその家は作ってもらわなかったのですが。）その設計図では、台所仕事や洗濯せんたくをするのにあまり歩き回らなくてもいいように流し台と洗濯場と勝手口が一直線になるように配置されていたり、どの部屋にもよく日があたるように工夫されていたり、とても感心しました。その友人も、この大工さんと同じように、家を作り、人に住んでもらう喜びを味わっているんだなああと、すこしうらやましくなったりすることもあります。家を作る仕事って、すごく楽しそうに思えてきます。みんなはどうですか？

